井田古屋敷遺跡

福岡県筑後市大字井田所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第75集

2007
筑後市教育委員会

せいでんふるやしきいせき
井田古屋敷遺跡

筑後市大字井田所在遺跡の埋蔵文化財調査

2007
筑後市教育委員会

序

今回発掘調査を実施した井田古屋敷遺跡の立地している井田地区は、筑後市の南西部に位置しています。現在の井田地区は田園風景が広がり、クリークが縦横に走っています。島田地区ではこのクリークを利用した城館が見つかっています。また、井田地区では「屋敷」とつく小字名が多くあるために、そのような館の存在も期待されましたが、今回は残念なことに館の確証を得るだけの材料はありませんでした。しかし、今回の調査が以降の調査に反映されることを期待します。

最後になりましたが、今回の発掘調査に関わった各関係者、井田地区の住民のみなさまには多大な援助をいただきました。ここに感謝の意を表する次第であります。

平成19年3月31日

筑後市教育委員会

教育長　城戸　一男

例言

1. 本書は市営住宅建設に伴い、平成 18 年度に実施した井田地区の埋蔵文化財発掘報告書である。

2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第Ⅰ章に記している。

3. 本書に使用した図面の遺構図については阿比留士朗が作成し、丸山裕見子が浄書した。また、遺物の実測は（財）元興寺文化財研究所に委託した。

4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は阿比留が行った。

5. 今回の調査に用いた測量座標はアジア航測株式会社に委託し、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を基準としとしている。

6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002 に準拠している）。
SD - 溝　SK - 土壙

7. 本書の編集、執筆は阿比留が行った。

目次

Ⅰ. 調査経過と組織・・1

Ⅱ. 位置と環境・・・2

Ⅲ. 調査成果・・3

写真図版

Ⅰ．調査経過と組織

今回調査がおこなわれた井田地区に市営住宅建設の計画があがったために、筑後市都市計画課から教育委員会に埋蔵文化財の包蔵地確認の照会があった。その後、試掘による確認を平成17年12月12日から12月16日までの5日間おこなった。その結果、当該地に遺跡が認められたために都市計画課と協議をし、建物位置の埋蔵文化財発掘調査による記録保存を実施することと決定した。本調査は平成18年4月17日より実施し、整理報告書作成作業を平成18年6月30日に完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

【調査組織】

平成18年度

総括	教育長	城戸　一男
	教育部長	平野　正道
	社会教育課長	田中　僚一
	文化スポーツ係長	北島　鈴美
	文化スポーツ係	永見　秀徳
	（文化財担当職員）	小林　勇作
		上村　英士（事前審査担当）
		阿比留士朗（本調査、報告書担当）

1）発掘調査参加者　地元有志

2）整理作業参加者

整理補助員　　丸山　裕見子　　猿渡　式子

（財）元興寺文化財研究所　　野口　晴香　　横井　理絵　　仲　文恵

Ⅱ.位置と環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、筑紫平野の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域では果樹園や茶畑、東部では米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

井田地区は筑後市の南西部に位置しており、三潴郡大木町と隣接した地域で標高は4mほどの低地に立地する。また、一帯はクリークが縦横している水田地帯である。井田は明治9年に井上村と下牟田村とが合併して誕生し井田と称した。また、明治22年に井田、古島、島田、折地、水田、上北島、下北島、野町の8村が合併して水田村となった。井田には井上玉垂神社、井田上玉垂神社、井田下御霊神社などの神社が現在の集落内に点在している。

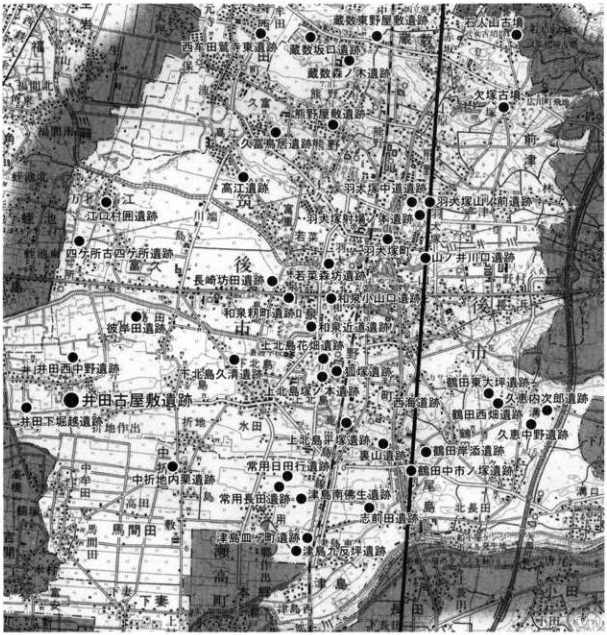


Fig.1　筑後市内主要遺跡図（1/50000）

Ⅲ. 調査成果

(1) はじめに

当遺跡は、筑後市大字井田字古屋敷に所在する。工事計画である 4700 ㎡のうち建物部分にあたる箇所に調査区を設定した結果、南北約 55 m、東西約 35 mの面積 2000 ㎡弱とした。この調査区は、平成 18 年 4 月 17 日より表土除去を（有）徳光建設に委託し開始した。また、現場内の測量及び杭打ちを（株）アジア航測に、空中写真は（有）空中写真企画にそれぞれ委託した。調査は阿比留が担当し、平成 18 年 6 月 21 日に現地の埋め戻しをもって調査を終了した。

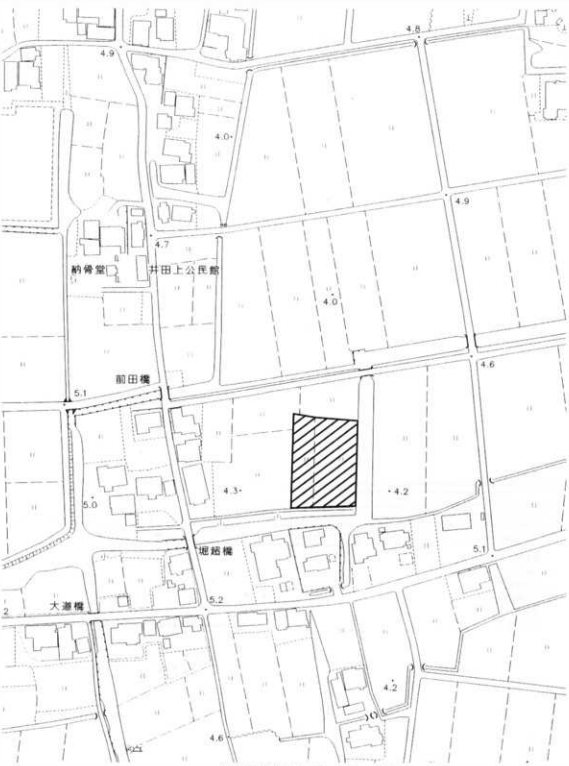


Fig.2　調査区地点位置図（1/2500）

(2) 検出遺構

溝

SD01（Fig.3・6、Pla.1・2）

調査区の南東隅に位置しており、南側の調査区外から弧を描きながら調査区東壁外に抜けていく。溝の規模は上面幅 3.0 m～ 3.9 m、底面幅 1.0 m～ 1.7 m、深さは検出面より 0.2 mと浅く、断面形態は船底状を呈する。この溝からは遺物がほとんど出土せず、出土した土器を見ても細片でしかも磨滅しているために詳しい時期判定が出来なかった。

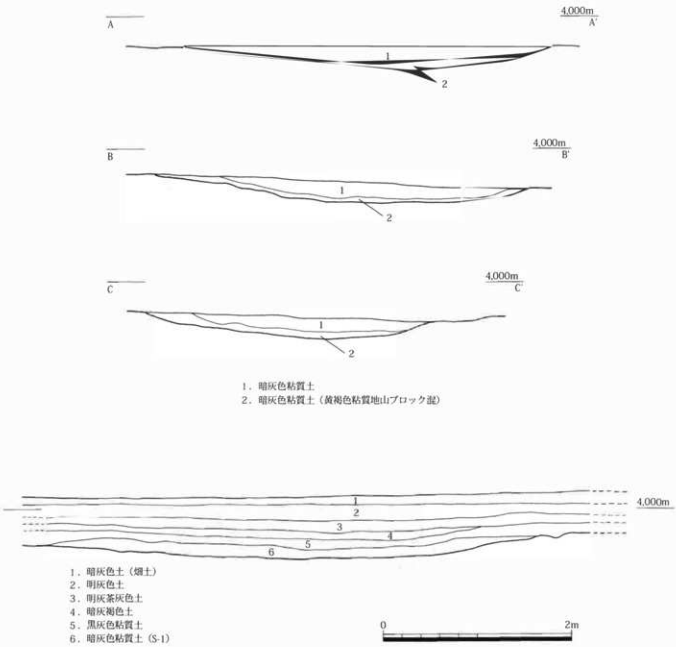


Fig.3　SD01 土層図（1/40）

土坑

SK02（Fig.4・6）

調査区南側に位置する、長軸 2.0 mの隅丸の長方形を呈する。検出面よりの深さは 0.15 mを測る。南西部にピット、西側に浅い土坑の切り合いが認められる。出土遺物は細片のために時期不明。

SK03（Fig.4・6）

調査区南西隅に位置している、長軸 1.0 m、短軸0.7 mの不定形を呈する。深さは検出面より 0.04 mと非常に浅い。出土遺物は細片のために時期不明。

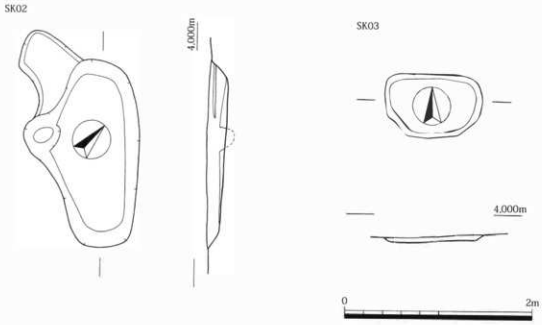


Fig.4　SK02・SK03 遺構図（1/40）

(3) 出土遺物（Fig.5、Pla.3）

今回の調査では遺構に伴う遺物の状況が非常に悪く、図化は勿論のこと時期さえも判定困難な状態であった。今回報告する遺物は遺構検出時に一括して取り上げた図化の可能な遺物を掲載する。

（1）甕の底部片である。器壁の調整痕は磨耗により看取出来ない。胎土には石英などの砂粒を多く含んでいる。色調は外面淡橙色、内面は明灰色を呈する。

（2）石包丁片である。石材は輝緑凝灰岩であり、残存は 1/3 程度と思われる。

Fig.5　一括遺物　土器（1/3）　石器（1/2）

(4) まとめ

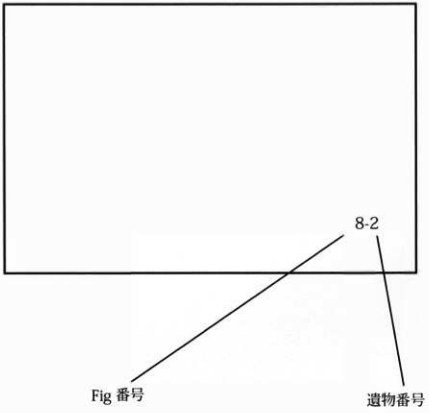
今回調査をおこなった井田古屋敷は標高が 3.8 m ほどであり地山は粘質土であった。遺構全体図(Fig.6) の北側は遺構がなく南側もほとんどが浅く、地形の窪み、もしくは重機による沈み込みの印象を受ける。井田地区には古屋敷、東屋敷、南屋敷、中屋敷など屋敷とつく小字名があり、また、調査区の西側には堀超橋が存在し屋敷や居館の跡が連想される。しかし、古屋敷でおこなわれた今回の調査では溝状遺構 SD01 を検出したが、円形を呈している事や溝の深さが浅い事や溝の内側に遺構がないなどにより屋敷と判断出来るだけの情報がなく、周辺地形にも SD01 の痕跡がないために用途は不明と言わざるをえないが、周囲のクリークに切られていることなどや少ない出土遺物であったが、その遺物から陶磁器などが出土してないことから下っても中世段階に埋没したと思われる。

Fig.6　遺構全体図（1/200）

PLATE

凡　例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



井田古屋敷遺跡　SD01　A－A' 土層

井田古屋敷遺跡　SD01 南壁土層

Pla.2

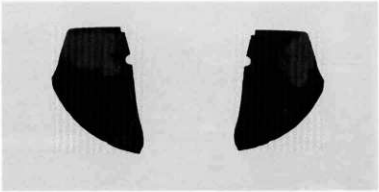
井田古屋敷遺跡　SD01　（南から）

井田古屋敷遺跡　SD01　（真上から）

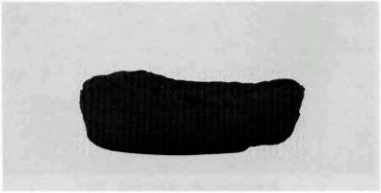
井田古屋敷遺跡　SD01　遠景

井田古屋敷遺跡　調査区南側　東から

井田古屋敷遺跡　調査区全景（北から）



5-1



5-2

筑後市文化財調査報告書　第 75 集

井田古屋敷遺跡

平成 19 年 3 月 31 日

発行　筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井 898
TEL 0942-53-4111

印刷　大同印刷株式会社
佐賀市久保泉町大字上和泉 1848-20
TEL 0952-71-8520 (代)